

—JADCI/JSHDR2014—

日本比較免疫学会第 26 回学術集会
第 25 回日本生体防御学会学術総会

大会事務局

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3
東北大学大学院薬学研究科 生命機能解析学分野内
JADCI/JSHDR 2014 事務局
TEL: 022-795-4565 FAX: 022-795-6802
E-mail : jadci-jshdr2014@mail.pharm.tohoku.ac.jp

JADCI/JSHDR2014

日本比較免疫学会第26回学術集会

第25回日本生体防御学会学術総会

概要

会 期：2014年7月9日（水）、10日（木）、11日（金）

会 場：東北大学 片平さくらホール
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1

大会長：倉田祥一郎（東北大学大学院薬学研究科）

日 程：

第1日 7月9日（水）

開会の辞	9:45～ 9:50
比較免疫学会一般講演1	9:50～11:20
比較免疫学会名誉会長 故古田恵美子先生メモリアルセッション	11:20～11:50
比較免疫学会一般講演2	13:00～14:30
比較免疫学会一般講演3・生体防御学会一般講演1	14:45～16:00
シンポジウム1	16:15～17:55

第2日 7月10日（木）

生体防御学会一般講演2	8:45～10:15
シンポジウム2	10:30～12:35
比較免疫学会総会	13:00～13:45
生体防御学会一般講演3	13:45～15:30
特別講演	15:45～16:45
写真撮影	16:45～17:00
懇親会	17:00～19:30

第3日 7月11日（金）

生体防御学会一般講演4	8:45～10:30
シンポジウム3	10:45～12:25
生体防御学会総会	12:55～13:40
生体防御学会奨励賞受賞講演	13:40～14:10
生体防御学会一般講演5	14:10～15:10
閉会の辞	15:10～15:20

会場案内

会場 東北大学 片平さくらホール
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1
(東北大学キャンパスは全面禁煙、喫煙所もありません)
受付、発表会場：2階、懇親会会場：1階

東北大学片平キャンパス アクセス

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/profile/campus/01/katahira/index.html>

- ・ 徒歩の場合：
仙台駅より約20分
- ・ バスご利用の場合：
仙台駅前西口バスプール11番・霊屋橋経由に乗車。片平丁小学校前の次、東北大正門前で下車。徒歩約7分
仙台駅前西口バスプール12番・動物公園経由長町ターミナル行に乗車。片平丁小学校前の次、東北大正門前で下車。徒歩約7分
- ・ 地下鉄ご利用の場合：五橋駅下車。北2番の出入口より地上へ、徒歩約8分



参加者へのご案内

【受付】

1. 当日大会参加費は正会員 5,000 円、非会員 5,000 円、大学院博士課程学生 3,000 円です。
大学院修士課程（博士課程前期）と、学部学生は無料です。
大学院生、学部学生は学生証の提示をお願いします。
懇親会費は正会員 4,000 円、大学院博士課程学生 2,000 円、大学院修士課程（博士課程前期）・学部学生 1,000 円です。
2. 受付は、7月9日は午前9時00分から、10日および11日は午前8時15分からです。
3. 会場では必ず、名札をお付けください。
4. 両学会への入会手続き、年会費の納入受付も両学会個別の受付で行います。

【発表要領】

1. PC 用液晶プロジェクターにより投影して行います。
2. 会場に発表用 PC として Windows (Windows 7) と Mac (Mac OS X) を用意します。

【発表データ作成】

1. 発表データは、パワーポイントファイルを USB フラッシュメモリーでデータ受付までご持参ください。
2. パワーポイントのファイル名は、演題番号と演者氏名を半角の数字と全角文字で作成してください。(例、一般講演：演題番号 12 番、演者＝仙台太郎、所属＝東北大学の場合、12 仙台太郎東北大、シンポジウム：演題番 S-1-2 番、演者＝仙台花子、所属＝東北大学の場合、S-1-2 仙台花子東北大)
3. ファイル作成時には「ページ設定」から「スライドサイズ」を A4 に設定して下さい。「画面に合わせる」に設定されたファイルでは映写の際に画像や文字がずれる可能性があります。

【データ受付】

1. 第1日目の午前中に発表が予定されている演者は 9:15 までにファイルをお持ち下さい。
第1日目の午後に発表が予定されている演者は当日 12:00 までに受付を完了して下さい。
2. 第2日目の午前中に発表が予定されている演者は第1日目終了までに受付を済ませて下さい。
第2日目の午後に発表が予定されている演者は当日 12:45 までに受付を完了して下さい。
3. 第3日目の午前中に発表が予定されている演者は2日目終了までに受付を済ませて下さい。
第3日目の午後に発表が予定されている演者は当日 12:35 までに受付を完了して下さい。
4. 大会事務局では PowerPoint 2013 (Windows) と PowerPoint 2011 (Mac) をインストールした PC を用意いたします。ご持参頂いたファイルが用意した PC で正常に作動するかデータ受付にてご確認下さい。
5. 上記時間帯以外でのファイル受付は会の進行に支障を来しますので、ご協力をお願いいたします。

【講演】

1. 一般講演：講演時間は10分（1 鈴 8 分、2 鈴 10 分）、討論 5 分の合計 15 分（3 鈴）です。
2. シンポジウム 1：講演時間は15分（1 鈴 13 分、2 鈴 15 分）、討論 5 分の合計 20 分（3 鈴）です。
3. シンポジウム 2 と 3：講演時間は20分（1 鈴 18 分、2 鈴 20 分）、討論 5 分の合計 25 分（3 鈴）です。
4. 時間厳守をお願いいたします。
5. 次座長、次演者の方は早めに指定の席にお着きください。

【写真撮影】

大会 2 日目の特別講演終了後に、会場において参加者の写真撮影を行います。

【懇親会】

1. 大会 2 日目の特別講演終了後に、17 時より会場（さくらホール）1 階において、懇親会を開催いたします。
2. 懇親会参加者の名札には印を付けさせていただきます。
3. 東北大学学友会マンドリン楽部の演奏をお楽しみ下さい。

【昼食】

会場周辺には多数のレストラン・食堂などがございます。また、大会 2 日目と 3 日目の昼食は、昼食時間が短いために、大会事務局から事前申込者に軽食（弁当）を配布します。大会事務局からの事前申込者への問い合わせにお答え下さい。大会 2 日目の日本比較免疫学会総会に出席されない方、大会 3 日目の日本生体防御学会総会に出席されない方は、昼食時間として仙台の味覚をお楽しみ頂くことができます。

【宿泊】

各自でご予約下さい。

日程表

7月9日(水)		7月10日(木)		7月11日(金)	
9:00	受付開始	8:15	受付開始	8:15	受付開始
		8:45	生体防御学会一般講演2	8:45	生体防御学会一般講演4
9:45	開会				
9:50	比較免疫学会一般講演1	10:15	休憩	10:30	休憩
		10:30	シンポジウム2 「生体防御を眺める視点」	10:45	シンポジウム3 「生体防御の基礎研究と臨床との接点」
11:20	古田先生追悼講演				
11:50	昼食	12:35	昼食	12:25	昼食
13:00	比較免疫学会一般講演2	13:00	比較免疫学会総会	12:55	生体防御学会総会
		13:45	生体防御学会一般講演3	13:40	生体防御学会奨励賞 受賞講演
14:30	休憩			14:10	生体防御学会一般講演5
14:45	比較免疫学会一般講演3・ 生体防御学会一般講演1			15:10	
		15:30	休憩	15:20	閉会
16:00	休憩	15:45	特別講演 Won-Jae Lee		
16:15	シンポジウム1 「若手研究者シンポジウム」	16:45	写真撮影		
17:55		17:00			
			懇親会 さくらホール1階		
		19:30			

プログラム

特別講演

7月10日(木) 15:45 - 16:45

座長：倉田祥一朗(東北大・薬)

演者：Won-Jae Lee

(Department of Biological Science, Seoul National University, Seoul, South Korea)

「Gut-microbe symbiosis and dysbiosis: A view from *Drosophila*.」

シンポジウム 1

7月9日(水) 16:15 - 17:55

「生体防御若手研究者シンポジウム」

座長：演者が次演題の座長をお願いします。

S1-1. マラリア原虫感染防御の感染初期における $\gamma\delta$ T細胞を介した樹状細胞活性化の重要性

井上信一、新倉保、井上愛美、小林富美恵
杏林大学 医学部 感染症学(寄生虫学)

S1-2. INAMはpolyI:C治療によるメラノーマの抗肺転移活性に必須である

笠松純、押海裕之、松本美佐子、瀬谷司
北大院・免疫学

S1-3. 創傷治癒過程におけるサイトカイン、ケモカイン産生とNKT細胞の関与

丹野寛大¹、川上和義²、鈴木愛子¹、菅野恵美³、高木尚之¹、上松野りな¹、
石井恵子²、丸山良子³、館正弘¹

¹東北大学大学院医学系研究科 形成外科学分野

²東北大学大学院医学系研究科 感染分子病態解析学分野

³東北大学大学院医学系研究科 看護アセスメント学分野

S1-4. ショウジョウバエ腸管におけるグラム陽性菌に対する防御応答機構の解析

堀亜紀¹、倉石貴透^{1,2}、倉田祥一朗¹

¹北大院・生命機能解析学、²PRESTO, Japan Science and Technology (JST)

S1-5. 細菌の新しいシグナル伝達物質：8-ニトロ-cGMPの同定と機能解析

井田智章¹、松永哲郎¹、赤司壮一郎¹、ジョン ミンギョン¹、津々木博康²、
藤井重元¹、居原秀²、澤智裕¹、赤池孝章¹

¹北大院・医・環境保健医学、²大阪府立大院・理・生物科学

シンポジウム 2

7月10日（木）10:30 - 12:35

「生体防御を眺める視点」

座長：倉田祥一郎（東北大・薬）

S2-1. 適応免疫システムの設計原理について考える

笠原正典

北大・院医・分子病理

S2-2. 進化から見た MHC 領域遺伝子

野中勝

東京大学大学院理学系研究科

S2-3. 自然免疫機構による細胞内の監視と細胞内寄生菌の感染戦略

土屋晃介

京大院・医学研究科・微生物感染症学

S2-4. T 細胞分化と生体防御

柴田健輔¹、吉開泰信¹

¹九大生医研・感染制御分野

S2-5. ユビキチンによるウイルス RNA 認識センサーRIG-I の活性化制御機構

押海裕之、松本美佐子、瀬谷司

北大院・医学研究科

シンポジウム 3

7月11日（金）10:45 - 12:25

「生体防御の基礎研究と臨床との接点」

座長：川上和義（東北大医学研究科）、石和田稔彦（千葉大学医学部附属病院）

S3-1. 肺炎球菌に対する防御機構とワクチン

宮坂智充¹、赤堀ゆきこ²、石井恵子²、大野勲¹、川上和義²

¹東北薬科大学・病態生理学、²東北大院・感染分子病態解析学

S3-2. ワクチン導入で変化した小児肺炎球菌感染症

石和田稔彦

千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部

S3-3. カンジダ感染症における NKT 細胞の関与

金城雄樹

国立感染症研究所真菌部

S3-4. 原発性免疫不全症候群と真菌感染

水上智之¹, 布井博幸²

¹国立病院機構熊本医療センター・小児科, ²宮崎大・生殖発達医学講座小児科学分野

生体防御学会奨励賞講演

7月11日(金) 13:40 - 14:10

座長: 川上和義 (東北大医学研究科)

L1. ショウジョウバエの腸内細菌に対する免疫応答と寛容の分子機構

柴田俊生

九州大学理学研究院生物科学部門

日本比較免疫学会名誉会長 故古田恵美子先生

メモリアルセッション

7月9日(水) 11:20 - 11:50

司会: 笠原正典 (北海道大学医学研究科)

M1. 吉田彪 (臨床パストラル教育研究センター)

M2. 佐々木年則 (国立感染症研究所)

M3. 和合治久 (埼玉医科大)

一般演題プログラム

第1日目 7月9日(水)

比較免疫学会一般講演1 9:50 - 11:20

座長：高橋計介（東北大院・農）

末武弘章（福井県立大学）

1. ショウジョウバエにおける脳・神経系による腸管恒常性維持機構

見目裕之¹、石川裕規²、大手学¹、倉田祥一郎¹

¹東北大院・生命機能解析学、²沖縄科学技術大学院大学・免疫シグナル

2. ショウジョウバエ個体を用いたオートファジー不全による炎症性腸疾患発症メカニズムの解析

長井広樹、矢野環、倉田祥一郎

東北大院・生命機能解析学

3. NF- κ B 経路の活性化を制御する新規因子コシャペロン CG8863/DnaJA3

靱内義希、熊田幸平、倉石貴透、倉田祥一郎

東北大院・生命機能解析学

4. カビ感染に対するショウジョウバエ免疫応答の比較発現解析

瀬戸陽介¹、田村浩一郎^{1,2}

¹首都大学東京・理工・生命科学、²生命情報研究センター

5. シンカイヒバリガイの鰓細胞による食食作用とその動態

多米晃裕^{1,2}、吉田尊雄³、大石和恵³、丸山正³

¹(株)マリン・ワーク・ジャパン、²北里大学大学院、³海洋研究開発機構

6. トラフグ TNF α は TNFR1 と TNFR2 に結合する

前田知己、末武弘章、小高智之、宮台俊明

福井県立大学・海洋生物資源学部

比較免疫学会一般講演2 13:00 - 14:30

座長：大石和恵（(独)海洋研究開発機構）

柴田俊生（九大院・理）

7. ハエ腸管の囲食膜タンパク質の架橋体形成による感染防御の分子機構

槇光輝¹、柴田俊生²、川畑俊一郎^{1,2}

¹九大院・システム生命科学、²九大院・理・生物科学

8. **トラフグ好塩基球は寄生虫感染部位でマスト細胞へと分化する**
 小高智之、末武弘章、前田知己、宮台俊明
 福井県立大学・海洋生物資源学部
9. **コイ補体 Properdin アイソフォームの多様性と機能解析**
 吉岡和紀、鶴木陽子、柚本智軌、中尾実樹
 九州大学大学院 農学研究科
10. **ネコザメ皮膚C型レクチンは極めて幅広い糖特異性を示し、自身の血液を凝固させる**
 筒井繁行¹、土津田雄馬¹、小野綾香¹、舘野浩章²、平林淳²、中村修¹
¹北里大学・海洋生命科学部、²産業技術総合研究所・幹細胞工学研究センター
11. **福島の放射能汚染地域に生息するコイの免疫系**
 鈴木讓
12. **マガキ血球貪食胞の酸性化に関する新知見**
 高橋計介、阿部史隆、福田陽一、伊藤直樹、尾定誠
 東北大学大学院農学研究科、水圏動物生理学分野

比較免疫学会一般講演 3・生体防御学会一般講演 1 14:45 - 16:00

座長：松崎吾朗（琉球大院・医）

柚本智軌（九州大院・農）

13. **モービリウイルス受容体の SLAM の結合面における 3次元モデルによるウイルス特異性や感受性の解析**
 大石和恵¹、鈴木倫太郎²、丸山正¹
¹（独）海洋研究開発機構、²（独）農業生物資源研究所・生体分子研究ユニット
14. **Evolution of the interleukin 2, 15 and 15-like family**
 Takuya Yamaguchi¹, and Johannes M. Dijkstra*²
¹Friedrich Loeffler Institutes, Insel Riems, Germany, ²A Fujita Health University, Toyoake, Aichi-ken *speaker
15. **NKT細胞の活性化を介する肺炎球菌ワクチンの感染防御効果解析**
 水口裕紀^{1,2}、井澤由衣奈^{1,3}、北野尚樹¹、上野圭吾¹、浦井誠¹、金子幸弘^{1,5}、
 朴貞玉⁴、明田幸宏⁴、川上和義⁶、竹山春子³、川原一芳²、大石和徳⁷、金城雄樹¹
¹感染研・真菌、²関東学院大・院工・細菌生化、³早稲田大・先進理工・生命医科、
⁴大阪大微研・臨床感染症、⁵大阪市大・院医・細菌、⁶東北大・院医・感染分子病態
 解析、⁷感染研・感染症疫学センター

16. 魚類のホルマリン不活化ワクチンによる液性免疫誘導と細胞性免疫抑制
 山崎雅俊^{1,2}、荒木亨介¹、中西照幸³、中易千早⁴、松崎吾朗²、山本淳¹
¹鹿児島大・水産、²琉球大・熱生研、³日大・生物資源、⁴水研セ増養殖研
17. ヒト Myeloid-derived suppressor cells (MDSCs) の特異的マーカーの探索
 武田裕司¹、加藤智幸²、渡邊千尋¹、阿部尚美¹、奈良英利¹、
 荒木明美¹、浅尾裕信¹
 山形大・医・¹免疫学、²泌尿器科学

第2日目 7月10日(木)

生体防御学会一般講演2 8:45 - 10:15

座長：澤 智裕 (東北大院・医)

押海裕之 (北大院・医)

18. IL-22 が誘導するヒト Phospholipase A2 Group IIA (PLA2G2A) による
Listeria monocytogenes 感染防御
 松崎吾朗、沖田大和、浜田聡、梅村正幸
 琉球大・熱生研・分子感染防御、医院・生体防御
19. IL-33 のマイコバクテリア感染防御免疫に対する増強効果
 梅村正幸^{1,2}、福井雅之^{1,2}、福井知穂^{1,2}、中江進³、松崎吾朗^{1,2}
¹琉球大・熱生研・分子感染防御、²医院・生体防御、
³東大・医科研・システムズバイオロジー
20. 新規抗肺結核ワクチン戦略による早期防御免疫応答の増強
¹福井雅之、^{1,2}梅村正幸、^{1,2}松崎吾朗
¹琉球大・熱生研・分子感染防御、²医院・生体防御
21. レジオネラ菌の細胞内寄生性を担うエフェクタータンパク質の宿主標的タンパク
 質の網羅的同定の試み
 瀬戸真太郎¹、菅谷圭子²、永田 年²、堀井俊伸¹、小出幸夫³
¹浜松医科大学感染症学講座、²浜松医科大学健康科学講座、
³浜松医科大学理事・副学長
22. 糖鎖修飾の変化による自然免疫反応のダイナミックな制御
 山本(日野)美紀¹、村岡正敏²、近藤周³、岡野栄之⁴、上田龍³、後藤聡¹
¹立教大理、²東京都医学総合研、³国立遺伝研、⁴慶応大医

23. 転写因子Nrf1はシステイントランスポーターおよび脂質代謝酵素群を抑制
制御する

辻田忠志^{1,2}、Vivian Mullin⁴、Liam Baird¹、松山由香¹、高久美咲¹、Shawn Walsh³、
Julian Griffin⁴、山本雅之¹、John Hayes²

¹東北大院・医、²Univ. Dundee、³NHS Tayside、⁴Univ. Cambridge

生体防御学会一般講演 3 13:45 - 15:30

座長：中根明夫（弘前大院・医）

土屋晃介（京大院・医）

24. 好中球の殺菌能におけるオートファジー機構の役割

伊藤洋志¹、北村奈緒子¹、山本翔¹、松尾英将²、足立壯一¹

¹京都大院・医・人間健康科学・検査応用開発学、²京都大・医・附属病院・検査部

25. オートファジー抑制および黄色ブドウ球菌の上皮細胞感染における毒素性
ショック症候群毒素-1の関与

浅野クリスナ、中根明夫

弘前大・院医・感染生体防御学

26. 8-ニトロ-cGMPによる細菌感染防御機構と硫化水素による制御

ジョン ミンギョン、松永哲郎、藤井重元、井田智章、澤 智裕、赤池孝章

東北大院・医・環境保健医学

27. プロテインキナーゼGの活性化ドメインへのS-グアニル化とその敗血症における
遷延性血圧低下への関与

澤 智裕¹、Ahmed Ahtesham²、藤井重元¹、井田智章¹、赤池孝章¹

¹東北大院・医・環境保健医学、²熊本大院・生命科学・微生物

28. 小形条虫の虫卵再感染における自然免疫による防御

渡邊直熙¹、石渡賢治²、浅野和仁³

¹慈恵医大・アレルギー学、²慈恵医大・熱帯医学、³昭和和大・保健医療・生理学

29. マウス白血球におけるリグニンポリマー認識ならびに自然免疫応答

山中大輔、石橋健一、安達禎之、大 尚仁

東京薬科大学院・免疫学教室

30. 抗原ペプチド輸送体様タンパク質が局在する線虫新規オルガネラ

錦織健児、丹治貴博、白石博久、大橋綾子

岩手医大・薬

第3日目 7月11日(金)

生体防御学会一般講演4 8:45 - 10:30

座長：金城雄樹（国立感染症研究所真菌部）

武田裕司（山形大医）

31. 新興感染症菌 *Helicobacter cinaedi* 感染による動脈硬化の促進作用

松永哲郎¹、岡本竜哉²、藤井重元¹、井田智章¹、澤智裕¹、河村好章³、赤池孝章¹

¹東北大院・医・環境保健医学、²国立国際医療研究センター病院、

³愛知学院大・薬・微生物学

32. Nested PCR 法による健常者における新興感染症菌 *Helicobacter cinaedi* 感染のスクリーニング

藤井重元¹、小山耕太²、松永哲郎¹、澤智裕¹、岡本竜哉³、河村好章⁴、赤池孝章¹

¹東北大院・医・環境保健医学、²熊本大院・生命科学・微生物学、

³国立国際医療研究センター病院、⁴愛知学院大・薬・微生物学

33. リステリオリシン 0 並びに *p53* 遺伝子のリステリア感染による肝実質細胞のアポトーシスへの関与

金子雅和、江本善子、江本正志

群大院・保健学研究科

34. クリプトコックス感染防御における 1 型インターフェロンの役割

松本郁美¹、佐藤光^{1,2}、山本秀輝¹、野村俊樹¹、石井恵子¹、宇野賀津子³、

川上和義¹

¹東北大院医・感染分子病態解析学、

²国立病院機構仙台医療センター・ウイルスセンター、

³ルイ・パスツール医学研究センター

35. クリプトコックス感染防御における IL-17A の役割

野村俊樹¹、佐藤光¹、山本秀輝¹、松本郁美¹、石井恵子²、岩倉洋一郎²、

川上和義¹

¹東北大院医・感染分子病態解析学、²東京理科大・生命医科学研・実験動物学

36. アユにおける抗原特異的二次免疫応答の解析

大谷啓貴、古澤修一

広島大・免疫生物学

37. IVIG 製剤治療抵抗性難治川崎病 KD へのインタフェロン適用可能性の実証研究着手

栗屋昭^{1, 2, 3}

¹皮膚科学疫学研究所(横浜市・戸塚)、²(独)理研横浜研究所、

³(独)科学技術振興機構

生体防御学会一般講演 5 14:10 - 15:10

座長：藤井重元（東北大院・医）

38. 高病原性クリプトコックス症に対する樹状細胞ワクチンの効果

上野 圭吾¹、大久保 陽一郎²、清水 公德³、金子 幸弘⁴、浦井 誠¹、水口 裕紀¹、
奈良 拓也¹、川本 進³、大野 秀明¹、澁谷 和俊²、宮崎 義継¹、金城 雄樹¹

¹ 国立感染症研・真菌部、² 東邦大・医・病院病理

³ 千葉大・真菌研・病原機能、⁴ 大阪市立大院・医学研・細菌学

39. 急性肺障害における Claudin-4 遺伝子欠損の影響

渡邊祐里絵¹、外山真彦¹、青柳哲史²、石井恵子¹、賀来満夫²、田村 敦³、
月田早智子³、川上和義¹

¹ 東北大院医・感染分子病態解析学、² 感染制御検査診断学、

³ 阪大院医・分子生体情報学

40. *Aspergillus oryzae* 由来 Ro1A による免疫回避とステルスナノ粒子開発への応用

石井恵子¹、渡邊祐里絵¹、松村香菜¹、笛 未崎¹、高橋 徹²、村垣公英³、
佐藤大貴³、阿部敬悦^{2,3}、高見誠一⁴、阿尻雅文^{2,4}、富樫貴成⁵、川上和義¹

¹ 東北大・院医、² NICHe、³ 院農、⁴ 多元研、⁵ 山形大・理・物質生命科学

41. ミエロペルオキシダーゼ欠損マウスのカンジダ死菌肺炎重篤化機構

荒谷康昭¹、本目みずき¹、三浦典子²、大野尚仁²

¹ 横浜市大院・生命ナノシステム科学、² 東京薬大・薬